一般質問

町政を問う！

第5日目に一般質問が行われ、3人の議員が町政について質問しました。

北條　勲議員（11ページ）

① 新幹線通学定期券購入補助金について
② 魅力ある当町のＰＲについて
③ 中学生のスクールバスについて

小林　一男議員（12ページ）

① Ｕターン定住者支援について

中村　由美子議員（13ページ）

① 町内の公共交通について

次回の定例会は11月30日からの予定です。

ただ今、多人数の傍聴受け入れは自粛させていただいております。
議会は、はがチャンネルでも放送します。

放送時間

会議当日	午後８時から
再放送	翌日の午後２時から

一般質問とは

一般質問は、定例会において行われ、議員が町の行財政全般にわたって執行機関に疑問点をただし、所信の表明を求めるものです。質問する議員も、受ける執行機関もともに十分な準備が必要なことから、通告制とされています。

質問時間は、1人につき質問・答弁を含め60分以内とされています。

北條勲が問う
中学生のスクールバス運行は

問 中学校から半径6km以上の上給、ハッ木、芳志戸の一部からの通学者56人は全生徒の14.2%もいます。バスを運行できないか。

答 教育長　前回の質問で、今後、学校や保護者からの要望があれば検討していきたいという旨の回答をしました。その後も要望等が無いので、現時点ではスクールバスの運行を考えていません。

問 県内のスクールバス運行状況と、中学校から半径6km以上で保護者が送迎している人数は。

答 学校教育課長　県内25市町中11市町が運行しています。保護者が送迎している人数は10人強です。

問 前年度の出生数はハツ木の丘だけで約20%、町の人口減少に貢献している地区であり、残りの区画130が入ると児童生徒も増加する。スクールバスは先を見た対策だと思わないか。

答 学校教育課長　八ツ木の丘だけの生徒数は現在36人で、小学校のスクールバス利用者を中学校に上がる生徒のほうに順次スライド換算するとR6年度58人、R9年度71人というところまで把握しています。

スクールバスの運行基準は、距離、道路状況、多様な下校の時間、部活動等を含め、慎重な検討を進めます。

▲八ツ木の丘に停まる3台の小学校スクールバス（登校時）

問 高根沢町ではヘルメット購入補助金、大田原市は小中学校遠距離通学交付金があります、当町の考えは。

答 学校教育課長　現時点での回答はできませんが、情報収集等は進めたいと思います。

魅力あるPRは

問 当町の著名人は福田たねです。恋人青木繋は国重要文化財に指定された洋画家で、子供の福田蘭童、孫の石橋エータローの三世代とも有名な方の解説版等でもっとPRをする考えは。

答 町長　本年は青木繋生誕140年、パートナーの福田たね展を春に展示し、秋にも展示をしてPRを実施しますが知名度向上や観光客誘致等の有効活用に結び付かないのが現状です、今後は総合情報館と道の駅はがと連携を図りながら魅力度向上の事業の実施を検討します。

問 道の駅はが周辺にある既存の物を活かしパンフレットを作るべきでは。

答 企画課長　今後も町の偉人等をPRできればと感じています。

▲五行川沿いにある海の幸の陶壁

▲わだつみのいろこの宮のステンドグラス

新幹線通学定期券購入補助金は

問 町外に転出する若者を抑制するには、東京圏の学生に新幹線を利用し通学できる定期券購入補助金の導入は。

答 町長　町に住所はあるが町外に居住している学生は30名前後いると推測されます。町から東京圏に通学している学生は4学年で26名です。県内での通学補助金制度は2市が実施しています。今後はLRTによる人の流れを検証し、実態に合った制度の導入を検討します。

▲来年8月に開業するLRT

議会だよりに掲載する一般質問の内容は、質問・答弁を質問者自ら要約執筆し、掲載しています。

小林一男が問う
Uターン定住者支援について

問 当町において、人口減少問題は祖陽が丘をはじめとする住宅地の入居の好調の影に隠れて見えにくくなっているが、これから芳賀町を担っていくであろう20代の人口流出は深刻である。

芳賀町また近隣市町に就職しても一人暮らしがしたい、また結婚してしばらくはアパートで気兼ねなく生活したいが、ゆくゆくは実家に戻りたいと考える若者も多いと思う。芳賀町のような散居村の地域コミュニティーの維持や家族制度の社会価値維持には、若者のUターンが欠かせない要因といえる。

私観になるが、30年以上前は祖父母両親との同居が当たり前だった。その後は、玄関、キッチン、風呂も分けた2世帯住宅となり今ではそれも死語となり、宅地内別居や分家住宅が主流となっている。

さて、その現在の実家近隣に住宅を求める現在の形態に対して、非常にハードルが高くなっている現状がある。土地の測量、時には接続道路の拡幅、転用手続き、地盤調査、上下水道の調査設計加入申請接続工事、これらの費用を勘案すると、既存の住宅地を購入した方がコストパフォーマンスとして有利になりかねない。

しかし、先に述べた通り、両親家族との近隣に居住してもらうメリットは、子育てから高齢祖父母両親の見守りなど多岐に渡り行政コスト低減にも寄与するものと考える。Uターンしてくれる住民の負担を軽減し、促進するために町の施策について伺う。

答 町長　ライフスタイルの変化などにより、3世代同居は減少し、核家族化が進んでいることは周知のことと思います。芳賀町では、過去10年で人口は1000人減少しましたが、世帯数は約300世帯増加し、これに伴い、世帯人口は0.4人減少し、1世帯あたりの世帯員数は2.86人となりました。

親世帯との同居も減少していると思われますが、その場合においても実家の敷地内や隣接地に居を構えることは家事の分担や子育ての手助けなど、家庭生活にメリットが見込まれる他、地域コミュニティーの維持や地域の活性化など行政的メリットが見込まれます。しかし、実家の敷地内や農地転用などにより隣接地を開発する場合には、土地の取得費用が抑えられる反面、許可申請や造成、上下水道などのインフラ整備に時間と費用がかかります。

Uターンなどにより、生まれ育った実家のすぐ近くで暮らしたい、子育てがしたいと考える若い世代を増やす、その夢を叶えるため支援していくことは今後の芳賀町を持続可能な自治体としていくためにも重要と考えているので、調査研究を進め有効な支援策について検討します。

▲二世帯別居住宅

問 地籍調査の進捗と見通しは。

答 建設課長　地籍調査により境界が確定され個人で宅地を造る際に活用できるメリットがあります。調査実施面積割合は27%、登記完了エリアは6.3%。令和24年度完了予定です。

議会だよりに掲載する一般質問の内容は、質問・答弁を質問者自ら要約執筆し、掲載しています。

中村由美子が問う
町内の公共交通について

問 通勤者向け芳賀工業団地循環バス運行の詳細は？

答 町長　生活路線バス再編の中で、芳賀工業団地への通勤者や来訪者に対するLRTの二次交通として新たに運行を計画しているものです。運行計画の詳細は、(仮称)芳賀工業団地トランジットセンターを発着点として、工業団地内の北方向と南方向を循環し、それぞれ1時間に1本程度のダイヤで運行する予定です。

問 利用者数はどれくらいを見込んでいるのか？

答 建設産業部長兼都市計画課長　一日当たりの利用者は、片道100人から200人程度を想定しています。公共交通で通勤できる環境が整い、環境負荷低減するとともに、工業団地の付加価値が高まる等の効果があると考えます。

問 工業団地路線は町外の利用者がほとんどとなる。バス事業者に対して毎年補助金が支払われており、増額になると思われるが、再編後は総額いくらを見込み、そのうち工業団地路線分は？

答 建設産業部長兼都市計画課長　現在、生活路線バスの運行支援として、バス事業者に対して、協定に基づき運行費用の赤字分の補填を補助しています。令和3年度の補助金は、約217万円。新たに導入する工業団地循環バスの運行経費は概算で年間1,800万円程度と試算しており、芳賀町を走行する距離が増えることから、補助金は増加すると見込んでいます。

問 令和4年度は町内の南北をつなげる公共交通の検討とあるが、今後の計画内容は？また、町は企業も大切だが、町民の利便性を優先すべきではないか？

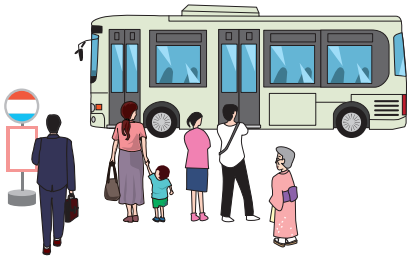
答 町長　LRT開業後の交通環境の変化を把握するとともに、既存の公共交通と適切な役割分担のもと、令和6年度からの運行を目途に、検討を進めていきます。今年度は運行計画を作成するために、移動需要の分析や運行サービスの検討、運航コストの算出など、持続的・継続的に運行可能な計画の検討を行います。

答 建設産業部長兼都市計画課長　運行計画の制度設計については、LRT開業の変化を想定しながら、慎重に進める必要があると考えています。

問 公共ネットワークは町全体の充実をはかり、地域や時間帯を考慮しなければ本来のネットワークではありません。南北バスはどのように連携していくのか？

答 建設産業部長兼都市計画課長　北部の八ツ木地区と、南部の水橋地区を起終点として、LRTや路線バス等と乗り継ぎができるようトランジットセンターや祖母井を経由するルートなどを想定しています。利便性の確保と効率的な運行のため、引き続き慎重に検討を進めていきたいと考えています。

最後に、町民の皆さんのために利便性をしっかり考慮し、各部署で連携を取って、一日も早い南北バスの早期運行を希望しました。



議会だよりに掲載する一般質問の内容は、質問・答弁を質問者自ら要約執筆し、掲載しています。